



平成25年11月13日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス
(コード番号 5856 東証第2部)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 常務取締役 忍田 登南
(TEL. 03-5524-7851)

特別損益の計上等、平成26年3月期第2四半期業績予想と実績との差異 及び通期個別業績予想の修正並びに剰余金の配当に関するお知らせ

当社は、平成25年8月13日付「特別損益の計上等、平成26年3月期第2四半期及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」にて開示いたしました、平成26年3月期の連結及び個別業績予想等を、特別損失の計上見込及び最近の業績動向等を踏まえ、下記のとおり修正いたしました。また、平成25年9月30日を基準日とする剰余金の配当を行うことについて決議しましたので、お知らせいたします。

記

I. 特別損益等の計上見込等

1. 特別損失の計上

個別業績に反映されるもの

- ・子会社に対する債権の株式化に伴う貸付金に対する貸倒引当金計上・・・上期 18 百万円

2. 特別利益の計上

連結業績に反映されるもの

- ・子会社（榊東京理化工業所）の固定資産売却益・・・上期 21 百万円
- ・子会社（榊ボン・サンテ）の事業譲渡益・・・上期 15 百万円

3. 営業外費用の計上見込等

連結業績予想等に反映されるもの

- ・子会社（榊ボン・サンテ）の訴訟関連費用・・・上期 6 百万円
- ・子会社（榊グローバルフード&リカーサプライ）の転貸不動産賃借料・・・上期 12 百万円、通期 24 百万円

4. 営業外収益の計上見込等

(1) 連結業績予想等に反映されるもの

- ・子会社（榊東京理化工業所）の設備復旧補助金等・・・上期 22 百万円
- ・子会社（榊東京理化工業所）の不要材料売却益・・・上期 11 百万円
- ・子会社（榊ボン・サンテ）の通貨及び金利交換取引契約の円安による利益・・・上期 47 百万円
- ・子会社（榊ボン・サンテ）の貸倒引当金戻入等・・・上期 11 百万円
- ・子会社（榊グローバルフード&リカーサプライ）の転貸不動産賃借料・・・上期 13 百万円、通期 26 百万円
- ・子会社（老松酒造株）のオペレーティング・リース終了時の利益分配金・・・上期 136 百万円

(2) 個別業績予想等に反映されるもの

- ・子会社（老松酒造株）からの配当金・・・上期299百万円
- ・貸倒引当金戻入・・・上期18百万円、通期20百万円

II. 業績予想等の修正について

1. 連結業績予想数値との差異

平成26年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（平成25年4月1日～平成25年9月30日）
（金額の単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	10,056	146	378	336	3円62銭
今回実績 (B)	10,064	59	290	261	2円81銭
増減額 (B-A)	8	△ 87	△ 88	△ 75	—
増減率 (%)	0.1	△ 59.6	△ 23.3	△ 22.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成24年9月中間期)	9,952	△ 405	△ 383	△ 494	△ 5円31銭

2. 個別業績予想数値の修正等

(1) 平成26年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（平成25年4月1日～平成25年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	491	45	357	405	4円36銭
今回実績 (B)	488	39	357	386	4円15銭
増減額 (B-A)	△ 3	△ 6	0	△ 19	—
増減率 (%)	△ 0.6	△ 13.3	0.0	△ 4.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成24年9月中間期)	491	23	263	244	2円62銭

(2) 平成26年3月期通期業績予想数値の修正（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	861	91	410	477	5円13銭
今回修正予想 (B)	951	173	493	532	5円72銭
増減額 (B-A)	90	82	83	55	—
増減率 (%)	10.5	90.1	20.2	11.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	788	△ 3	198	△ 230	△ 2円48銭

3. 業績修正等の理由

(1) 連結業績について

第2四半期累計期間につきましては、営業利益、経常利益及び純利益が前回の予想を下回りました。その主な理由といたしましては、営業利益につきましては、ダイカスト事業（△26百万円）における原材料費の増加、酒類製造事業（△20百万円）及び教育事業（△55百万円）における粗利率の低下及び販管費の増加に伴う利益の低下によるものであります。経常利益につきましては、営業利益への影響要因によるものであります。純利益につきましては、経常利益への影響要因によるものであります。

なお、通期連結業績予想の修正はございません。

(2) 個別業績について

第2四半期累計期間につきましては、売上高、営業利益及び純利益が前回の予想を下回りました。その主な理由といたしましては、売上高につきましては、教育関連事業の売上の減少によるもので

あります。営業利益につきましては、販管費は減少したものの、売上高の減少及び売上原価の増加によるものであります。経常利益につきましては、営業利益への影響要因及び貸倒引当金戻入によるものであります。純利益につきましては、連結納税額によるものであります。

通期につきましては、売上高、営業利益、経常利益及び純利益が前回の予想を上回る見込となりました。

その主な理由といたしましては、売上高につきましては、子会社からの経営指導料の増加によるものであります。営業利益及び経常利益につきましては、売上高の増加及び第2四半期累計期間への影響要因によるものであります。純利益につきましては、経常利益への影響要因及び連結納税額によるものであります。

Ⅲ. 剰余金の配当について

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成25年8月13日公表)	前期実績 (平成25年3月期)
基準日	平成25年9月30日	平成25年9月30日	—
1株当たりの配当金	0円50銭	0円50銭	0円00銭
配当金総額	46百万円	—	—
効力発生日	平成25年12月5日	—	—
配当原資	その他資本剰余金	—	—

(注) 純資産減少割合 0.010 (小数点以下3位未満切上)

2. その他資本剰余金を原資とする配当の理由

当社は、安定した収益力の維持と更なる成長によって、企業価値の向上を図り、配当などを通して株主の皆様への期待に応えることを基本方針としております。

この方針に基づき、平成26年3月期第2四半期末の配当について検討を行い、第2四半期連結累計期間において業績が黒字転換し、期末においても黒字計上が見込まれることから、適正な株主還元方針を明確にするため、その他資本剰余金を原資とすることにより、株主の皆様に対して早期に配当を行うことといたしました。

※配当予想は次のとおりとします。

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
配当予想		0円50銭	1円00銭
当期実績	0円50銭		
前期実績 (平成25年3月期)	0円00銭	0円00銭	0円00銭

(参考) 平成25年8月13日付 「特別損益の計上等、平成26年3月期第2四半期及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」

以上